

**長野県立木曽病院
医療情報システム調達
落札者決定基準
(別紙)**

令和 3 年 5 月

地方独立行政法人 長野県立病院機構

長野県立木曽病院

企画提案評価表

大分類	No.	審査項目	素点	重み付け	配点
① 基本事項	1	システム全体概要	50	2	100
	2	稼働実績	50	1	50
	3	医療安全の効果	50	4	200
	4	医療・介護の情報連携	50	5	250
	① 基本事項 計				600
② システム要件	1	処理能力	50	3	150
	2	マスタ管理	50	4	200
	3	バックアップ	50	3	150
	4	信頼性・可用性	50	2	100
	5	セキュリティ	50	2	100
	② システム要件 計				700
③ 技術力、開発・供給能力	1	開発方法について	50	2	100
	2	プロジェクト管理・品質管理	50	4	200
	3	作業支援について	50	4	200
	4	データ移行・システム移行	50	4	200
	5	研修・リハーサル	50	4	200
	③ 技術力、開発・供給能力 計				900
④ 運用・保守・サポート能力	1	システム保守体制・メンテナンス性	50	4	200
	2	保守フェーズで発生する費用	50	2	100
	3	次期リプレイス対策	50	4	200
	④ 運用・保守・サポート能力 計				500
⑤ プレゼンテーション	1	プレゼンテーション	50	6	300
	⑤ プレゼンテーション 計				300
企画提案評価点 合計					3,000

① 基本事項

No.	評価項目	記 述 内 容	重み付け	配点
1	システム全体概要	- 次期医療情報システム全体に関して、「要求仕様書」に基づき貴社が提案する内容の全体の枠組み、基本的な考え方、アピールポイント等を冒頭に簡潔に記述すること。 - 提案するシステムの構成、システム毎の役割、他システムとの連携の概要をシステム構成図で示すこと。その際、各システムの名称と要求仕様書の中で記載している名称との関連を明確にすること。	2	100
2	稼働実績	- 提案する電子カルテシステムについて、以下のそれぞれの条件における稼働状況をできるだけ数多く、施設名を含み詳細に記述すること。なお、件数のみの記載では評価できないため留意すること。 ① 200 床程度の病院における、平成 28 年 4 月以降にシステム稼働した実績。 ② 自治体立の総合病院における、現在の稼働状況。	1	50
3	医療安全の効果	当院では、次期医療情報システムの導入により、検査結果や画像レポートを見落とし、医療事故とならないよう検査結果や画像レポートの見落としを防止できる機能を実現したい。貴社のシステムを導入することで実現できる運用方法、システム機能、効果を具体的に記述すること。	4	200
4	医療・介護の情報連携	- 今回のシステム更新では、併設する老人介護保健施設や介護医療院との情報連携の強化を図る。提案するシステムにより実現できる具体的な運用について、以下の視点により記述すること。 ① 医療情報と介護情報をシームレスに連携。 ② 各施設における業務効率化。 ③ 介護保健請求（レセプト請求）への対応。 ④ 地域住民にもたらす効果。	5	250

② システム要件

No.	評価項目	記 述 内 容	重み付け	配点
1	処理能力	- 提案する医療情報システムに求められる処理能力、レスポンス性能について、以下の視点から記述すること。 ① 性能面に関するアピールポイントについて ② 処理毎に保証するレスポンス、レスポンス保証のための対策、技術、実績について ③ 求められるレスポンスが得られなかった場合の対応策について ④ データ量の増大等による経年的なレスポンス低下に対する対応について	3	150
2	マスタ管理	- 電子カルテ・部門システム間のマスタの共通利用・連携機能について次の視点から具体的に提案すること。 ① マスタを共通利用・連携できる範囲 ② 一部のシステムのマスタを更新することで他のシステムのマスタも自動で更新できる仕組み、もしくは他のシステム側で変更が必要であることが分かる仕組み ③ マスタメンテナンス機能の活用など、職員側のメンテナンスコスト削減に資する仕組み	4	200

No.	評価項目	記 述 内 容	重み付け	配点
3	バックアップ	● 本提案におけるバックアップ対策について、以下の視点により記述すること。 ① 院内に設置する機器に障害が発生した際に運用継続するための対策や運用方法、障害発生時のオペレーションを具体的に記述すること。 ② 万一の障害や大規模災害に備えるためのバックアップ対策について、システム別に、バックアップ内容（処理方法、周期、開始時間、所要時間等）を具体的に記述すること。 ③ 大規模災害等に被災した場合の BCP 対策として、医療情報システムのバックアップを遠隔地のデータセンターやクラウド環境に保管する運用を想定している。具体的な運用計画やセキュアなインフラ構築について提案すること。 なお、これらの環境整備、運用維持、メンテナンスにかかる費用は保守の範囲に含めて提案すること。	3	150
4	信頼性・可用性	● 質の高い医療サービスを安定的に提供するために、提案する医療情報システムで実現する信頼性及び可用性について、以下の視点により記述すること。 ① 効果的な障害防止対策について記述すること。 ② 24 時間運用の実現方法について記述すること。 ③ 医療情報システムの停止が必要な場合の、その理由及び具体的な停止時間と周期、想定される診療に影響を及ぼす範囲や対応策について。 ④ 機器等の障害に対し、診療行為の継続を可能にする方策、その方法について記述すること。 ⑤ ハードウェア／ソフトウェアそれぞれシステム障害に対して自動検知、対応機能等があれば記述すること。	2	100
5	セキュリティ	● 貴社のセキュリティ要件に関する基本的な考え方・方針等を記述すること。 ● 以下に挙げたそれぞれの要件について、セキュリティの実現方法を具体的に記述すること。これ以外にも本システム構築に際し、実装するのが望ましいセキュリティ機能については、積極的に提案すること。 ① 個人情報保護 ② 機密保護機能、データ改ざん防止機能、コンピュータウイルス等有害ソフトウェア防止・排除機能、アクセス制限機能、利用者識別・認証機能、ユーザ管理機能等 ③ 「医療情報システムの安全管理に関するガイドライン」最新版に示されている基準に対応したセキュリティ機能 ④ システムログ管理の範囲（利用者、患者情報アクセス、印刷、外部媒体出力）と方法	2	100

③ 技術力、開発・供給能力

No.	評価項目	記 述 内 容	重み付け	配点
1	開発方法について	● 貴社の採用するシステム開発方法について、以下の視点により記述すること。 ① システム開発工程の考え方、稼働開始までのスケジュールを明示すること。また、工程別の作業項目について説明すること。 ② 要件定義のフェーズにおける具体的な作業の進め方（ワーキング開催、画面・帳票仕様検討等）、ポイント等について記述すること。	2	100
2	プロジェクト管理・品質管理	● 貴社の採用するプロジェクト管理手法及び品質管理に関わる取得規格・資格及び品質管理手法について、下記の視点により記述すること。 ① プロジェクト管理手法、品質管理手法を具体的に記述すること。 ② 開発体制、要員の役割（プロジェクトマネージャを含む）を明示した上で、その考え方、根拠等の説明を記述すること。 ③ 本システムの設計・開発に関わるメンバーの経歴（資格、経歴・実績、経験年数、今回採用する開発ツールや開発言語での開発経験）及び所属部署について記述すること。 ④ 品質管理に関して貴社の考え方、実施方法、具体的な目標等を記述すること。	4	200
3	作業支援について	● システム開発プロジェクトを推進するにあたり発生する当院側の作業について、以下の視点により具体的に記述すること。 ① 想定される当院側の作業を記述すること。記述の際は、作業の発生タイミング及び作業ボリュームがわかるように留意すること。 ② 当院側の作業負荷軽減に向けた支援策を記述すること。	4	200
4	データ移行・システム移行	● 現行システムから次期医療情報システムへの安全かつスムーズなデータ移行を実現するための方策・手法について、以下の視点により具体的に記述すること。 ① 要求仕様書_機能要件 41.データ移行に記載する項目について、実際に移行可能な項目と移行不可能な項目について明確にすること。（前提条件がある場合は、記述すること。） ② 移行不可能な項目がある場合は、業務に支障を来さないようにするための対策案を記述すること。 ③ 現行システムから次期医療情報システムへのシステム移行について、安全で確実なシステム切り替えを実現するため、データ移行計画、スケジュール、問題点と対策について、具体的に記述すること。 ④ 次期医療情報システム稼働時の立会いサポート計画（立会い場所、人数、立会い期間等）を具体的に記述すること。	4	200
5	研修・リハーサル	● システムの研修について以下の2種に分けて、具体的な内容や実施回数、スケジュールについて記述すること。 ① 利用者向け研修 ② 運用管理者向け研修。 ● リハーサルについて、データ移行・システム移行による影響も考慮した上で、スケジュール及び問題点と対策について、記述すること。	4	200

④ 運用・保守・サポート能力

No.	評価項目	記 述 内 容	重み付け	配点
1	システム保守体制・メンテナンス性	● 本提案におけるシステム保守体制及びメンテナンス性について、以下の視点により記述すること。 ① 提案する医療情報システムのハードウェア、ソフトウェアそれぞれの保守体制を詳細に記述すること。リモートメンテナンスを提案する場合はその旨、記述すること。 ② 保守サービス拠点及び当院に到着するまでの所要時間を記述すること。 ③ システムダウンや障害の発生から対策を決定するまでの、手順、方法、及びケース別の対応の仕方について記述すること ④ システムメンテナンスの容易性について、その詳細を記述すること。	4	200
2	保守フェーズで発生する費用	● 保守フェーズで発生する費用について、以下の視点により記述すること。なお、貴社の経験から、当院と同様な病院規模、システム規模の施設において、想定される費用を記述すること。 ① 業務アプリケーション改修等費用 診療報酬改定等、システム稼働後に推定されるソフトウェア仕様変更・追加等業務アプリケーションの改修・追加等費用を単価×人月工数＝合計金額の形式で記述すること。 ② 医療機器追加接続費用 現行の医療機器を更新または追加において、本調達システム側で発生する接続費用を単価×人月工数＝合計金額の形式で記述すること。なお、仕様書別紙 4.システム接続機器一覧に記載する機器名称毎に記述すること。	2	100
3	次期リプレイス対策	● 次期医療情報システム稼働から 7 年後にシステムリプレイスの必要性が生じる場合があるが、その場合に円滑に次期システムに対しデータ提供を行う必要がある。 本提案における次期リプレイス対策について、以下の視点により記述すること。 ① システムリプレイスの際に、支障なく次期システムに対しデータ提供ができるような対策について、貴社の方針を記述すること。 ② リプレイス作業が発生する場合の、データ出力形式、データ出力範囲を提案すること。 ③ 新規開発及びカスタマイズによりシステム開発を行った場合の、その著作権や使用权等の考え方について記述すること。	4	200

⑤ プレゼンテーション

No.	評価項目	記 述 内 容	重み付け	配点
1	プレゼンテーション	● システム開発プロジェクトを推進するにあたり、病院スタッフに対し、事業の進捗状況や必要事項を説明し、院内各部門に理解を求め、調整を行なって進めていくことが重要である。 また、短期間でシステム開発を行い、スムーズに新システムを稼働させていくには、プロジェクトマネージャの資質・能力に拠るところが大きいと考えられる。 ついては、別途日程を定め、今回の提案における貴社の考え方やアピールポイントについて、前述の「プロジェクト管理・品質管理」に記述された当院開発担当であるプロジェクトマネージャによるプレゼンテーションを行うこと。	6	300

以上